

理想は高遠に、 実行は足下から。



Otsuma-Tama 2011 Autumn

広大な裾野に支えられる学校ですが、
各学年は4クラスの家族的な学校です。
女子校の美点にもあふれています。
大妻多摩は完全中高一貫教育。
落ち着いた6年間を過ごしてください。

校舎も学習カリキュラムも女子専用設計。繊細な心身の健康管理も女子校ならではの、大妻多摩には
明らかな女子校アドバンテージが揃っています。

一般的に女子は心身の成長が男子より早く、小学校の高学年段階でしっかりしているように映ります。
お母さまにとっては同性。ゆえに（男子に比べ）油断による放任傾向も指摘されています。大人のように
振る舞っていても、これからの中学高校時代の成長は困難な道。細やかな気配りを絶やさず、あたたかく
導いてあげましょう。そして精いっぱい伸ばしてあげましょう。

先生たちが手のかかる男子生徒に奔走し、女子への目がおろそかに陥る。日本の男性優位の風土は
学校にも残っています。共学のデメリットも論じられています。

そこで一。

男子に遠慮して一歩引いてしまう姿勢もなく、自分の可能性を最大限に生かす。逆に男子に頼らず、
リーダーシップも力仕事も自分で担う。そのような成長過程を願うのであれば、大妻多摩は有意義な選択肢。
女子校は公立中学校では皆無。特別な教育環境です。「大妻」の信念に守られ、私立学校らしい文化も
吸収できるでしょう。

都心に比べ女子校が少ないエリアにあって大妻多摩は大切な存在です。東京や横浜の都心まで通わ
なくても、たおやかな女子校の恵みは享受できるのです。

広々と青空に開け、燦々と陽光が注ぐ女子校です。

小田急線唐木田駅から間近の丘に構えます。まだ真新しい大妻女子大学多摩
キャンパス。大学らしいアカデミックなムードが漂うなか、生徒たちはなだらかな
階段を軽やかに歩みます。多摩の丘陵地を見渡す高台で待っているのが中学
高等学校の校舎です。女子校らしい柔らかい気配。授業の間、休み時間に響く
生徒たちの声。朗らかな表情。皆が安らかな気持ちに包まれるでしょう。

東京多摩の地を代表する女子進学校、大妻多摩中高は、100年を超える
「大妻」の血統を受け継ぐ日本学校教育界が誇る正統派名門女子校です。

20世紀の初頭、一人の女性が、広島から上京しました。「女は手芸裁縫を
学ぶもの」との強要に反発し、女性の可能性を求め東京に駆けだしたと伝えられて
います。しかしながら、その後、彼女は秀でた裁縫手芸の才能を発揮します。
結婚後、私塾を開きました。近隣の女子たちを招き、縫製手芸を手ほどき。
時は1908年（明治41年）。彼女の名が大妻コタカです。

その指導力に、私塾の評判がたちまちに知れ渡りました。たくさんの女子たちが
彼女のまわりに集いました。光景が目につかびます。約10年後の1919年
（大正8年）には麴町の地で高等女学校にまで発展。激動の時代、日本の女子
教育に力を尽くした「大妻」の誕生です。

「良妻賢母養成」との印象が色濃い学校として知られていました。
現在は、男性視点による女性観を超え、女子のための人間教育に邁進。
「良妻賢母」のモットーは影を潜めましたが、21世紀の今、「母で
あつても妻であっても、そして社会の一員であっても、主体的に、輝いて

生きる女子を育む」という志は普遍的。大妻の存在意義は、今も
輝きつづけています。

力強い意志を携え、幅広い世界に巣立つ大妻多摩の生徒たち。しなやかな
足取り。それが、大妻多摩生の気風だと思います。ご家庭の皆さんは「堅い」
進学校のイメージが強いですか？ それは、誤解です。限られた枠に収め、
強引に引きずるような指導は見えません。奔放な身のこなしを促す指導が
大妻の本意です。生徒一人ひとりに光を当て、それぞれの生徒にふさわしい
最善の成果を願う学校だと信じます。

「高い理想を掲げ、日々励ましています。生徒たちは応じてくれます。
みんな大きな夢を抱いています。自己実現のために果敢に挑んでいます。
『それはちょっと目標が遠すぎるのでは…』と、逆に先生がひるんで
しまうほど。でもそれは、杞憂です。彼女たちの意欲と努力を頼もしく
見つめています。」徳増校長先生も笑顔で語ります。

「恥を知れ」は、大妻多摩の生徒たちが自ら自分の胸に問う校訓です。
自尊心に恥じない言動。それが、大妻スピリットなのです。2008年、
100周年を迎えました。大学も従来の「家政系大学」から進化し、
総合的な学府として受け入れられています。学園全体が新しい時代の「大妻」に
向かって活気にあふれています。

「理想は高遠に、実行は足下から」、建学者、大妻コタカのメッセージは、今も
中学高等学校の生徒たちを導きます。

大妻多摩の高い教務力や進路指導力は、あえて詳細な説明は
不要でしょう。すでに女子受験生ご家庭に広く伝わって
いるはずです。

ぜひ大妻多摩のキャンパスを訪れ、実際にその風景を確かめて
ください。学校行事でも、日常のランチタイムでもよいと思います。受験
生ご本人であれば、将来、その場に自分が過ごす光景を思い
描いてください。保護者の方であれば、わが娘の姿を学園風景に
重ねてみましょう。共感し安心し、心がときめくのであれば、大妻
多摩は、きっと、期待に応えてくれるでしょう。そして、大きな夢を
探してください。

6年間の進路指導の流れ

- **中1 学習習慣の確立、学習管理力の涵養**
←学習計画表の作成、総合学力調査など
- **中2 職業理解に関するアプローチ**
←職業適性検査、職業調べなど
- **中3 学問分野理解に関するアプローチ**
←学問分野ガイダンス、国公立大学志望者対象説明会
- **高1 進学希望分野の絞り込みと、文系・理系選択**
←オープンキャンパスへの参加、文理適性検査、先輩を囲む会
- **高2～3 志望校の決定と合格に向けて**
←団体戦で受験を勝ち抜く、進路相談、添削指導

